サークル楽しみ隊

子育て中のママ歓迎

フラワータイム

指導者の鰐渕久美子さん

英国風フラワーアレンジメントのサークルだ。テキストはなく、指導者の鰐渕（わにぶち）久美子さんが会員のレベルに合わせて指導する。

この日はバラを中心に、トルコキキョウやカモミールなどを使用し、花を円形にまとめる「ラウンド」、ラウンドを左右に引き伸ばした形の「オーバル」、三日月形の「クレッセント」の基本をそれぞれ指導した。大きな花をさしてから、その間を埋めるように小さな花や葉をさしていく。花が長持ちしない夏は、プリザーブドフラワーを使用することもある。

目指す形にバランス良く整えるのはなかなか難しいが、会員らは「先生が優しくて、質問しやすい」「ちょっとしたアドバイスでとても良くなる」と笑顔で話した。

時間内にできなかった人は、メールで画像を送って質問しながら自宅で挑戦することもある。鰐渕さんは「私も子どもをおんぶしながら習いましたから」と子連れでの参加もOKと話す。夏休みや冬休みには子ども教室を開いたり、つくば市で3月と9月に開催されるママサークルフェスタに参加するなど、子育て中でも何かやりたい主婦の思いに応えている。

花と緑のさわやかな香りが広がり、気分もリフレッシュできる＝つくば市春日交流センター

鰐渕さんは「『私にはセンスがないから』と言う方もいますが、何度もやっていくうちに自然とバランス感覚が身についてきます。センスは磨かれるから大丈夫。初心者歓迎です」と参加を呼びかける。（古賀由美子）

◆活動は毎月第2、第4木曜午前10時～11時30分、つくば市春日の春日交流センターで（7月、12月、3月は第1・第3木曜。8月は休み）。会費は月2000円、花代1回2000円。体験は1回1000円（2日前までに予約を）。問い合わせは090・4099・1900（鰐渕さん）まで。

フォルクローレ聴こう

ギター文化館 第一人者・マリオ鈴木氏公演

マリオ鈴木氏

日本のフォルクローレギター第一人者、マリオ鈴木氏のギターリサイタルが23日、石岡市柴間の「ギター文化館」で開かれる。

鈴木氏は1947年生まれ、東京都出身。本場、アルゼンチン・フォルクローレギターの巨匠と言われるエドゥアルド・ファルーらに師事し、自作曲は300曲を超える。スペインやアメリカなど世界でも活躍中。映画「新・雪国」（奥田瑛二主演）の主題曲も担当した。

「聴く人の胸にしみこむような感動を与えてくれるマリオ鈴木氏のギター演奏をどうぞ」と同館では来館を呼びかけている。

午後2時30分開場、同3時開演。全席自由で前売り3500円、当日4000円。（小石川哲也）

◆問い合わせはギター文化館（電話0299・46・2457）。

ペンでつながる 心のタスキ

みんな持ち場で健やかであれ

曽我　真

43歳。既婚。2人の子持ち。娘小2、息子1歳半。人生まっただ中の私にとって一番の関心事は家族が無事であることです。

家内安全という四文字熟語がひしひしと身にしみます。息子の熱が上がれば、それが最大の懸念事項となり、小児科へ駆け付けるべきなのか、明日は妻に仕事を休んでもらうべきなのか。優先事項が刻々と変わります。

ダイニングテーブルの上に椅子からよじ登り、一通り辺りのお皿、箸入れ、ティッシュペーパーボックスを蹴散らし、満足げに両手を挙げるので拍手で応えてあげる。そろそろ下りようね、と抱きかかえようとした自分の足下でご飯粒を踏む。うわ、さすがにちょっと待てと拭こうとした瞬間に、息子がテーブルの上で転倒、端から落下。椅子にもんどり打って、横ひねり。床に落下する直前、後頭部をなんとか抱える。大泣きしてても、娘は小学校へ行かせなきゃ。女の子だから髪をすいて、ゴムひもで留めるのはママのセンスで。いってらっしゃい。児童館迎えはパパだからね。どたばたな朝の喧騒（けんそう）を和らげてくれる一瞬の微笑。私は大丈夫だよ、とばかり振り返らずに集団登校。

さ、今日も一日が始まる。妻の職場、息子の保育所、娘の小学校。みんな持ち場で無事でいますように。夕方また会おう。

（つくば市、株式会社ドサナイテ代表）

※つくば市の小山洋樹さん（4月30日付）からタスキを引き継ぎました。

「ペンでつながる　心のタスキ」では読者のみなさんのご意見、ご感想を募集しています。また、ぜひこの人にタスキをという推薦も募集しています。あて先は常陽新聞編集部　FAX029－869－9836　メールdesk@joyonews.jpまで

内田みち子の新世界紀行 ズッコケ一人旅

－65－　ソデレ・エチオピア

ソデレの街中でホテルを探していたところ、心当たりがあると言うカップルと一緒にタクシーでホテルにチェックイン。カップルの男性はイギリス人、女性はエチオピア人でフレンドリー。アフリカではこの後もヨーロッパ人男性と現地の女性のカップルをよく見かけるが、バックパッカー風の中年や老年男性と若くて美人の女性の組み合わせは何を物語るのだろう。たしかにアフリカはヨーロッパから近く、元植民地だった関係で英語やフランス語を話す人も多い。物価も安く旅をしやすいのかもしれないが。

この日の夕食は彼女が一緒だったのでオーダーもアムハラ語の通訳でスムースに出来た。しかし翌日の朝食時には私一人で野菜サンドイッチとジュースを頼むが、途中で卵サンドイッチに変更したら何と両方来てしまった。レセプションで文句を言うとウエイトレスは英語がよく分からないからとキャンセルに応じてくれない。愛想よく「OK、OK」と言っていたのに…。

私も英語が通じず苦労したこともあったので（今でも苦手）許すことにして、食べきれない分はランチ用に包んでもらった。

バス停まで乗ったトゥクトゥクのお兄さん、下りる時になって法外な値段を言う。言いあっていると周りは人だらけに、お兄ちゃんに味方する人が多い。ひるまず「それじゃあ警察に行こう」と息巻くと、まだ高めだがやっと引き下がった（アフリカでは警察もぐるになることも多いが）。

明るいうちにバスでアジスアベバに戻り、翌日は早朝4時にケニア・ルワンダと乗り継ぎブルンジまで飛行機移動だ。本当はバスで国境を越えたかったがエチオピアとケニアの陸路越えは危険すぎるので泣く泣く高い飛行機を予約した。

国際線は2時間前チェックインなので1泊するのももったいない。アジスアベバにも温泉があり、ここで午前1時半まで時間つぶしをすることにした。

この写真はエチオピアの国民食インジェラ。見た目は煮しめた雑巾、発酵しているので酸味がある。最初は勇気がいったが慣れればそれなりにおいしい。

（牛久市、旅人・画家）

エチオピアの国民食インジェラ